

○令和2年度リモート認知症カフェ実施状況 ※公表に同意いただいた団体を掲載

	団体名	市町村名	開催形式(複数回答可)	回数	参加者数(合計)	プログラム例	県提供タブレットの活用方法
1	グループホームみんなの家・横浜金が谷	横浜市	リモートと対面のハイブリッド	4回	御本人 80人 その他 25人 スタッフ・ボランティア 16人	14:00～初めの挨拶、参加者の紹介 14:10～プログラム(リズム体操等) 14:45～グループディスカッション 15:00 終了/次回の告知	主催者利用、参加者(地域の方)に貸与
2	社会福祉法人 たすけあいゆい	横浜市	リモートのみ	1回	御本人 1名	10:10～自己紹介/近況報告 10:45～コンテンツ(筋トレ) 11:15～ブレイクルームにてディスカッション 11:45～発表や伝えたいことを募る 12:00～終了/次回告知	(施設内)
3	NPO法人 街カフェ大倉山ミエル	横浜市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド 対面のみ	6回 3回 8回	・リモートのみ その他12人 ・ハイブリッド 御本人2人 その他6人 ・対面のみ 御本人12人 御家族12人 その他18人 スタッフ・ボランティア12人	14:00～自己紹介/近況報告	主催者利用、ご家族に貸与
4	チーム「いろばた茶屋」	横浜市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド	1回 1回	・リモートのみ 御本人 6人 その他 2人 スタッフ・ボランティア 2人	11:00～ 開始・はじめに 11:10～ 自己紹介・お互いの取組の様子 11:40～ 交流 12:00 終了	主催者、参加者
5	たまコネ食堂部	横浜市	リモートと対面のハイブリッド 対面のみ	3回 5回	・ハイブリッド 参加者83人 スタッフ・ボランティア 31名 ・対面のみ 参加者184名 スタッフ・ボランティア 53名 ※ご家族・ご本人・その他の区別でカウントしていない。	12:30 会場準備 13:30 オープニング ・お誕生月紹介 ・パタカラ体操 13:40 ○座ってレク(月ごと季節にあったものに代わります) 夏祭りを味わおう(イスに座って盆踊り) 13:55 ○なつかシアター 昭和歌謡と昭和の生活(高度成長期) 14:10 ○のびのび7 ○ゆったりハマトレ 14:20 ○ごあいさつ・次回事業のご案内 終了 消毒・換気 入れ替え 14:30 オープニング ・お誕生月紹介 ・パタカラ体操 14:40 ○座ってレク(月ごとに代わります) 夏祭りを味わおう(イスに座って盆踊り) 14:55 ○なつかシアター 昭和歌謡と昭和の生活(高度成長期) 15:10 ○のびのび7 ○ゆったりハマトレ 15:20 ○ごあいさつ・次回事業のご案内 終了	・主催者利用(ZOOM)としてご自宅にスタッフとともにうかがう ・聞こえの悪い方に筆談用
6	おしゃべりばや・ま・と	横浜市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド 対面のみ	5回 4回 1回	・リモートのみ 御本人4人 御家族9人 その他 14人 スタッフ・ボランティア25人 ・ハイブリッド 御本人7人 御家族7人 その他 12人 スタッフ・ボランティア22人 ・対面のみ その他6人 スタッフ・ボランティア6人	参加者、参加人数によって都度検討	運営委員1台貸与、参加者(本人、家族)に貸与
7	医療法人社団 康心会ふれあい鶴見ホスピタル	横浜市	リモートのみ	13回	御本人 52人 御家族52人 スタッ フ・ボランティア10人	家でできる！認知症予防体操(動画:45分:理学療法士・作業療法士) 記憶力向上1分トレーニング(動画:20分:言語聴覚士) 医学講座「物忘れ外来ってどんなところ？」(動画:50分:石井副院長) 医学講座「認知症予防と運動について」(動画:50分:石井副院長) 医学講座「高齢者のためのリハビリテーション」(動画:45分:高塚医師) 上記はタブレットに入れた動画例です。	参加者(ご本人・家族)にオレヅカフェ用として作成したリハビリ、予防体操、医学講座等の動画を入れ貸与
8	横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院	横浜市	リモートのみ 対面のみ	1回 2回	御家族3人 その他6人 スタッ フ・ボランティア5人 御本人2人 御家族12人 スタッ フ・ボランティア16人	10:10～自己紹介/近況報告 10:45～コンテンツ(筋トレ) 11:15～ブレイクルームにてディスカッション 11:45～発表や伝えたいことを募る 12:00～終了/次回告知	

	カフェ名	参加者の様子	御本人からの感想など	ご家族からの感想など	工夫した点	苦労した点	令和3年度に向けた抱負	リモート認知症カフェ以外のタブレット端末活用方法	他団体の方に共有した事等
1	オレンジカフェ・みんなの家	体操等の参加型プログラムなので、楽しんで頂いています。	毎回楽しいと感想を頂いています。		利用者と地域の方が共に楽しめるレベルのプログラムを模索した。	元々のオレンジカフェに参加して下さっていた方に声かけしてもZoomのハードルが高く、参加して頂けない。ご説明をしに伺うと話してもパソコンはちょっと…としり込みされるので参加者が増えない。	月に1回第2火曜と日を決めて開催するようになっている。継続する事で、従来のホームでのオレンジカフェが開催できる時まで、地域の方と繋がりを維持して行きたい。	職員会議の時にフロア見守りの為に別フロアにいる職員がzoomで会議に参加できるようになった。	リモートオレンジカフェやハイブリッドで行っている団体の方と繋がって、情報を共有させて欲しいです。
2	陽だまりオレンジサロン	現場との温度差あり。慣れるまで時間が掛かりそうです。	飲食が出来ない。楽しそうな雰囲気なので、現場に行きたくなる等		接続が不安定なため、途中からテレビ電話へ切り替えを行った。	操作説明、接続不安定、機器お渡し及び回収のため、対面が必要など。	多数でのオンラインでの開催を実施してみたい。	認知症カフェでのタブレットを活用して、会話が出来た等、コミュニケーションツールとして活用できること。	導入の際の使用する方の不安がある方への説明の仕方等成功例があると良いのでは？
3	認知症カフェ	・普段、シニアサロン(おでかけミエル)にいらしている利用者さんに、zoomの使い方などを説明して、ご自宅での活用を促す。 ・シニアサロンにも持ち込んでいただき、サファリなどで、YouTubeなどを楽しんでもらう。 ・ZOOMは難しく、活用には至らなかったが、きっかけとなって、LINEをスマホで使うようになった。今は、カフェの出欠など、80代の方が、LINEで送ってくれるようになった。こちらも、毎回のカフェの様子をスマホのカメラで撮って、皆さんと共有している。	・YouTubeで、懐メロを好きなだけ楽しめることを、とても喜んでる。 ・3月までは、通信料の心配がなかったので、とても楽しめた。 ・4月以降はカフェに来た時に、動画を楽しんでいる。	・急に、iPadを持ち帰ってきたので驚いたが、自宅でもYouTubeなどを楽しんでいるようだった。 ・4月以降は、Wi-Fiがないので機器を返却した。	・できるだけ、毎回のリアルのカフェに持ち込んでいただき、iPadの使い方の慣れていただくようにした。 ・ご家族との連絡を取るようにした。 ・ご夫婦での活用を働き掛けた。	・通信料の負担により、Wi-Fiのあるお宅がほぼなく、4月以降は、端末をカフェ以外では活用できない。 ・当初、LINEや、Facebookなど、別のアプリも使っていたが、appleIDが届かず、アプリをダウンロードできなかった。	・できるだけ、ミエルにいらしている間は、iPadを楽しんでもらう。 ・IT機器に親しんでもらう。 ・リモートで参加の皆さんや、他の拠点との同時開催のイベント等、画面を通じた交流の機会を増やしていく。	・ミエル来店時に、普段自宅では見ることができない、懐メロのYouTubeなどを楽しんでもらっている。 ・ミエルのカフェでは、小学生や、乳幼児親子の出入りもあるので、動画の編集など、活用の幅は広い。	・ケアプラザが発信元になり、拠点をつないで、同時に開催するイベントもあり、(歌声サロンなど)現在は、ハイブリッドで楽しんでもらっている。情報が共有出来れば、いつもどこかでハイブリッドでイベントが開催されているという状況が作れるのではないかなと思う。
4	いろは茶屋	いきなり交流からではなく、デイサービスの取組動画から始まったので、相手との話しがスムーズに行うことが出来た。当事者の方へ取組の様子をお伺いすると、とても楽しそうにお話ししてくれたのが印象的である。	特になし	家族の同伴はなかった	デイサービスとの交流の認知症カフェのため、スタッフとの事前打合せを行い、当事者が楽しめることは何か？を考え、当日を迎えました。	初めてだから失敗して当然との気持ちと、失敗しては…の気持ちが同時進行し、会話をするのに苦労しました。	認知症当事者とその介護者と繋がるよう工夫を重ねていきたい。実際、介護をしていて外に出ることが難しい介護者へ繋げ、日頃の介護疲れを緩和できるようなオンラインカフェを目指したい。	一人でも多くの方が参加できるように、現在は、ZOOM練習会でのタブレット使用が主流となってしまっている。オンライン認知症サポーター養成講座2021年度地域とケアプラザ協働で行う認知症を正しく理解する文化祭での取組に活用予定。	
5	ブラブラっとカフェ	感染予防を考慮してのカフェの再開にかなり喜んでいました。また、会場にいらしゃれない方の顔が画面に映ると、歓声が上がりみんなで手を振るといった光景が見られました。	音声等聞きにくいところがあったので、同行したスタッフが耳元で説明していただきました。会場レクにも一緒に参加いただいた。久しぶりの再会に笑顔が多くみられました。	来ていただけてありがたいという言葉をいただきました。	感染防止のための内容を変更 ・2部に分けて参加者を減らした。 ・検温・手指消毒の徹底をした。 ・同じ向きになるように机の配置を考え、密を避けた座り方にした。 ・同じ方向を見ながら、参加者が混ざりあわないように、楽しめるゲームを毎回工夫して行った。(神経衰弱・すごろく・ビンゴ等) ・事前申し込みにして人数を把握して分散して行った。 ・懐かしい映像を流して、同じ向きでも楽しめる内容とした。 ・ボランティアの手作りおやつを提供していたが、お土産の形にした。 リモート開催 ・会場の一人一人を写したり、会場全体を写したりできるように「カメラ係」を配置して、臨機応変に対応した。 ・ZOOM参加の方の自宅にスタッフがタブレットを持って出かけ、声をかけながら会場の様子を伝えたり、ゲームに参加してもらったりした。 ・事前にテスト配信を行いリハーサルを行った。	高齢の方の傾向として、ご自宅にWi-Fiがなく、機器操作もなれないため、スタッフが一人つききりになってしまおう。	通信料の負担がなくなってしまい、Wi-Fi環境がないお宅へは行けなくなってしまったのが残念である。コロナ感染だけでなく、遠方または体調等によって会場にいらしゃれない方のために、希望に応じてZOOM等での開催を考えている。内容を工夫しながら、状況に応じて開催していきたい。	・地域ケア会議で活用した。地域の集会所等にそれぞれ持ち出し、ZOOM出の会議を行った。 ・筆談アプリを使用して(しゃべって筆談)聞こえの悪い方に対応している。 ・認知症または前段階の方に、絵や写真で紹介し説明するのに使用した。 ・体操・介護予防講座のYoutubeチャンネルを開設して、出張して紹介し、一緒にやっていたい。	
6	認知症カフェおしゃべりば	・一人住みの若年性認知症の方には、タブレットを届けセッティング。参加できて楽しそうでした。 ・一人住みの92歳の女性が参加された時は(フランス語を話される素敵女性)近隣の女性の参加もあって、女子会の様楽しく盛り上がりました。横浜らしい雰囲気も漂っていました。 ・介護者がzoomしているそばで、要介護5の本人がベッド上でその会話を聞いていました。 ・デイサービスの新規開設を目指している方、舞踏家、民生委員、包括職員、鍼灸師等、普段顔をあわせない方々が出会えた。 *参加者に幅を持たせ、繋がりを作り出す事ができた。	・新しい体験ができて、話もできて楽しかったとの声が聞かれた。(基本的にzoomで参加できる方であるので)	コロナ禍、会話も特定の方に限られているので、楽しかった。zoomに参加できて、興味深かった	・チラシを見ての参加はなく、参加の声掛けが必要であった。 タブレットを必要な方に届け、操作の説明指導する事をボランティアに依頼した。 ・参加者によって部屋割りを検討し実施。特に相談対応が必要な方には、部屋割りを工夫した。 ・途中から、長時間では疲れる事が分り60分～90分に短縮し開催。 ・参加者の興味のある方に参加依頼した。(遠方の若年性認知症本人が参加し話をされた。運営委員がケアマネである事からとても勉強になった。他の参加者もそうであったと思う)	・zoom開催のカフェは、チラシだけでは、参加のハードルは高かった。対面カフェでは、認知症本人を囲んで話を盛り上げる等できたが、zoomでは難しく、コロナ禍前に参加されている方の参加は難しかった。	・コロナ感染状況によりですが、zoomで演奏会、専門家による勉強会等 新たに検討している。 ・対面カフェの必要性も実感できているので、安全、安心の開催を検討したい。	・運営委員が関わっている福祉イベントに使用。	・特になし
7	オレンジカフェ鶴見	自宅で家族と動画を見ながらバズルや筋力低下を防ぐ体操を行い、習慣を作るようにしているとのこと。 脚が上げづらくなり玄関の段差を超えるのに時間がかかっていた方が、動画の体操を1日10分行い、4か月後に半分ほどの時間で超えられるようになり、脚上がりがやすくなったとのこと。	・動画で何回も見られるのはありがたい。1回見ただけだと判らないことが多いし、先生もお忙しいから中々質問ができないので助かる。 ・こういう(タブレット)は自分では操作できないから家族と一緒に見た。娘と一緒に動画の体操をやっている。	・コロナ禍で本人がほとんど家を出なくなり、1日中テレビを見ることが多くなっていましたので、どうせ画面を見ているならこういう動画を見ながら体を動かしているほうが良いと思う。 ・仕事があるため平日昼の時間帯ではカフェに出向くことができなかった。普段のカフェとは内容が違ってもいいが、本人と一緒に動画を見て2人で体操できたりするのは家族のためにもいいと思う。	オンラインツール(ZOOM等)の使用は本人や家族、医師、スタッフ全員の時間を合わせる必要があり、なおかつ参加者側で操作ができる人が限られるため、当院で作成したオレンジカフェ用の動画をダウンロードした端末を貸出す体制を取りました。時間を合わせる必要が無くなることで、働いている家族等のサポートが受けやすくなりました。	・高齢の参加者が多く、タブレット端末を操作できないためオンラインでの開催が難しい状況下で、オレンジカフェとしての情報発信を行える動画の作成。 ・台数が限られるため、できるだけ多くの参加者に貸出できるスキーム作成。	・コロナ対策を万全にしたうえで対面での活動再開を目指す。 ・カフェ以外の時間でも見られる動画作りや環境の充実を図る。	・今までカフェに来られなかった移動困難な入院患者への端末貸出しによる動画視聴 ・物忘れ外来受診を検討中のご家族への説明に動画を使用	当カフェでは動画をメインとした活動を行っておりますが、他の認知症カフェとの動画共有ができたら面白いのではと考えています。
8	メモリーカフェはなみずき	スタッフ含め、リモートに慣れてなく、会話をすることが大変そうでした。	認知症カフェへの参加はリモートが初めてでしたが、とても勉強になりました。今後は直接の参加もしていきたいです。	企画を認知症学習にして、企業や一般の方から参加者を募った。	音声トラブルが起こり、一時パニックになった。	ハイブリッド型の認知症カフェを開催	認知症カフェ中に個別でYouTubeを放映して、認知症についての勉強や、タブレットに慣れていない方に直接触ってもらい、リモート認知症カフェの紹介をしました。	特になし	

	団体名	市町村名	開催形式(複数回答可)	回数	参加者数(合計)	プログラム例	県提供タブレットの活用方法
9	認知症&予防カフェ「コソコソ」運営委員会	横浜市	リモートのみ	4回	スタッフ・ボランティア10人 御本人15人 御家族10人 その他 60人 スタッフ・ボランティア70人	13:30～ スリーA 体操 14:00～ 雑談・おしゃべり会 15:00～ クイズ・ゲーム 15:30～ 終了/次回告知	主催者が利用するがカフェの日は少しづつ参加者にZoomを教えています。それ以外に区の認知症サポーター連絡会や認知症カフェ連絡会にリモート参加する時に使用しています。
10	竹山地区社会福祉協議会	横浜市	リモートと対面のハイブリッド 対面のみ	3回 1回	・ハイブリッド 御本人15人 御家族3人 その他20 人 スタッフ・ボランティア22人 ・対面 御本人4人 御家族1人 その他6人 スタッフ・ボランティア7人	10:00～ 主催者挨拶/自己紹介 10:10～ ロコモ体操(ユーチューブ) 10:20～ 有名人しりとゲーム・連想ゲーム 11:00～ おしゃべりタイム 11:30～ 終了	主催者利用、参加者(家族、サポーター)に貸与。
11	蒔田南地区ほほえみ交流カフェ運営グループ	横浜市	リモートと対面のハイブリッド 対面のみ	6回 3回	・ハイブリッド 御本人6人 御家族6人 その他89人 スタッフ・ボランティア23人 ・対面 御本人3人 御家族3人 その他35人 スタッフ・ボランティア44人	1330 開始 1340 スタッフ挨拶 来賓紹介 1410 ミニ講義 1420 お茶タイム 1450 おしゃべりコーナー 1500 終了	主催者利用、参加者家族に貸与
12	NPO法人 マイWay	川崎市	リモートと対面のハイブリッド	4回	・ハイブリッド 御本人12人 御家族5人 その他4 人 スタッフ・ボランティア12人	自己紹介 近況報告 など	参加者(ご家族)に貸与
13	たまりんく	川崎市	リモートのみ	13回	御家族20人 その他160人	ケアカフェ説明&自己紹介 19:00～19:20 グループトーク1 19:20～19:40 グループトーク2 19:40～20:00 グループトーク3 20:00～20:20 まとめ&記念撮影 20:20～20:45	サブモニターとして活用
14	認知症カフェ丘の上カフェ	川崎市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド	2回 1回	・リモート 御本人2人 御家族2人 その他3人 スタッフ・ボランティア6人 ・ハイブリッド 御本人2人 御家族1人 その他2人 スタッフ・ボランティア4人	10:00～ カフェ趣旨説明/自己紹介/近況報告 10:15～ 四季の絵手紙鑑賞(zoom+会場はスクリーンで流しながら質問等) 10:35～ 今月のテーマ(防災クイズ、高齢者とお金の話など) 11:00～ フリートーク(zoomの人と会場分けて。zoomの人数が多いときはグループわけ) 11:30～ 中締め(みんなに伝えたいこと、テーマのリクエスト/次回告知) 12:00 終わり	主催者利用と参加者(家族)に貸与
15	じょいふるカフェ	相模原市	リモートと対面のハイブリッド	5回	・ハイブリッド 御家族24人 その他6人 スタッフ・ボランティア26人	協賛:相原高齢者支援センター じょいふるカフェ会 NPO LINKマネジメント アプリ操作指導 ・司会進行 挨拶 ・参加者出欠確認 ・分かり合える仲間と情報交換会 ・軽い体操・頭すこやか(コグニサイズ運動) ・閉会挨拶 次回開催日報告	・主催者利用、参加者(家族)に貸与
16	まんまるえがお	相模原市	リモートと対面のハイブリッド	5回	・ハイブリッド 御本人8人 御家族5人 その他51 人 スタッフ・ボランティア50人	まんまるえがお(オンラインメニュー)13:30～15:30 13:30 ハーモニカで歌 13:40 みんなの自己紹介(テーマを決めて)～歌・体操・篠笛～ 14:20 写真鑑賞(季節の城山の写真) 14:40 休憩～10分～ 14:50 ハーモニカ演奏 15:10 体操 15:20 脳トレクイズ(パワーポイント)	会場でWi-Fi利用、または個人宅から参加者が利用
17	みかん茶屋	相模原市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド	1回 1回	・リモートのみ 御本人4人 スタッフ・ボランティア4 人	15:00～ コロナが流行してからの過ごし方 15:30～ 頭の体操(漢字・計算・言葉遊び・合唱) 15:40～ 終了	参加者(ご本人)に貸与
18	認知症フレンドリーよこすか	横須賀市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド	2回 22回	・リモート 御本人10人 御家族4人 ・ハイブリッド 御本人110人 御家族110人 其 他132人 スタッフ・ボランティア88 人	10:10～ 自己紹介/近況報告 10:45～ コンテンツ(筋トレ) 11:15～ プレイクルームにてディスカッション ※テーマがある場合 11:45～ 発表や伝えたいことを募る ※時々関連動画を視聴 12:00～ 終了/次回告知	1. リモート参加者へ貸出 2. 会場のサブ画面 3. 複数の管理者による参加の際にスタッフが利用

	カフェ名	参加者の様子	御本人からの感想など	ご家族からの感想など	工夫した点	苦勞した点	令和3年度に向けた抱負	リモート認知症カフェ以外のタブレット端末活用方法	他団体の方に共有した事等
9	認知症 & 予防カフェ「コソコソ」	スマホを持っている人にはアプリをインストールしてタブレットと交信した。	少しづつ興味を示すことがあった。	多くの人は、デジタル機器に馴染んでいないので時間をかけてやっていきたい。	事前に頂いたマニュアルを使用しスタッフだけで集まり勉強会を幾度か行った。	カフェを行っている会場には、Wi-Fi環境が整っていないので	コロナもワクチン接種が進めば落ち着いてくると思うので正時に戻った時にそなえタブレットを有効利用しながらプログラムも新規に追加してゆきたい。	ポータブルのWi-Fiルーターを検討し有効に生かした運営を考えてゆきたい。	
10	カフェぶらり	当初 使用方法等についてマニュアルを参考にしながら、操作するもZoomが繋がらない、画面が出ない、音が出ない等々慣れるまでに時間が掛かり自己紹介程度で終了してしまふ。回を重ねることに要領が良くなり、軽い体操や、ホワイトボードを使用してクイズ出題・解答などのゲームも出来るようになり、参加者と楽しい時間を興ずる事が出来た。	楽しかった。スゴイね〜。スクリーンに映った自分にびっくり！	対面でのみカフェを開くことが出来ないと思っていたが、皆さんの尽力によって画面を通して楽しむことが出来て良かった。今後も続けて欲しい。	会のはじめに体操を取り入れ、肩の力が抜けるようにして、緊張感無く入り込めるようにした。 ホワイトボードを使用しているゲームを行うことで、音声の聞きづらさや特定の参加者だけの発言をぼろぼろすることが出来た。 タブレットだけでなく、TVとかスクリーンを利用し、大きな画面で皆が見やすくなるようにした	機器の取り扱いになれるまでに時間を要した。	6月にハイブリッドカフェを開催し、リモートと対面を交互に実施して欲しいとの要望があり、それを実現できるようにしたい。	区役所 区社協 ケアプラザ等とのリモート会議に活用している。	他の団体とのリモートカフェにトライし、徐々に活動を広げて見たい。
11	認知症 & 予防カフェ「ほほえみ交流カフェ」	コロナ禍で外出機会が少ない中、みんなと会えてうれしい。嬉しいことや不満を言える機会があつてよかった。	オンラインでの参加が出来てうれしい。(オンラインでの発言)	4月以降もWi-Fi接続で参加します。	ハイブリッドでの開催で、会場参加者とオンライン参加者が一体になれるか?を工夫し、大型スクリーンを購入し、オンライン参加者と会場全体・発言者をスクリーンに映し、できるだけ一体になるよう工夫した。	会場にWi-Fi接続がない。県からのタブレットが頼りであった。	会場にWi-Fi環境がないため、4月以降スマホにデザリングオプションを追加した。	リモート認知症カフェのみに使用	他のリモートカフェの情報を教えていただければ、参加したい。
12	マイWayカフェ	ハイブリッド形式で実施。最初は画面越しで家族の顔が映ることに不思議な様子で違和感があったようだが、次第に会場にいる参加者とオンラインでの参加者が手を振りあうなど、交流を図ることが出来た。	びっくりしたけれど、そんなことが出来るのか。	慣れないことばかりだったが、自宅から参加することが出来たので良かった。皆さんの顔が見られて嬉しかった。	会場での参加者とオンラインでの参加者に一体感を持たせること 進行役がうまく話をふる必要があった	タブレットを貸与しても、導入の仕方を伝える必要があった 通信環境が整っていないと、オンラインが難しい	令和2年度は、正式な認知症カフェではなく、本人や家族などのついでに活用をした。今年度はより誰もが参加しやすい場づくりを検討していき、リモートとのハイブリッドが実現できるようにしたい	上記同様。本人や家族のついでに活用した	
13	ケアカフェのぼりと	医療・介護。福祉職の方を中心にエンジニア、行政書士、ボランティアの方が参加し、毎月のテーマに沿ってお喋りを楽しんだり、困りごとの相談を行っている。	親の介護する上で気づきや勇気を得られた	対等な立場でリラックスした環境で話しやすい場を提供している		人数が15人以上になると運営側の負担が大きくなる	コロナが落ち着いたら、オフラインで開催したい	シニアのスマホ教室などでその場で検索したり、アプリやiOSの説明のために使用	繋がる一つの手段として、今後もオンラインの活用は必須になると思います。 オンラインカフェを実施しているところに参加してみると、いろいろ得られるものがありました。 是非、オンライン開催しているカフェを探して参加してみてください。
14	丘の上カフェ	・参加者はスマホしか持っていない人は大きいので助かる。 ・扱って良かったので良かった。	・自分が映っているのがびっくり。 ・なんでこんなことできるの? ・遠くの人と話せて楽しい	・時間帯があれば、介護者だけのzoomでの会議やってほしい。	遠くからの参加者でも、zoomでできるように、適宜Ipadの使い方やzoomの研修を行うようにしている。	・当日、ハイブリッドやるためにマイクスピーカーやウェブカメラ三脚など購入。得意な方が一人しかいないので内部の研修が必要。 ・zoomだけならそれほど大変ではないがハイブリッドだと、接続やもつてるのを忘れたなど、必ずミスがあり、いまだ慣れない。 ・zoomだけのおしゃべりの時、話が盛り上がっているときは会話が重なりすぎる(対面と違い空気が読みにくい)、会話がなると焦るので、常に、何か話題を用意する必要がある。司会が大変。	ハイブリッドをもう少し、慣れてスムーズにできるように。会場に来る人も増やせるので遠方の方との交流を楽しんでもらいたい。 地域にスマホ、Ipad、パソコンの基本ができる高齢者が増えるようにしたい。	パソコン代わりに気軽に検索。扱って良かった人への、お話し。	・zoomも併用すると、大変なこともあるが、遠くの方が参加してもらえらる利点もある。 ・移動時間を考えなくて良いのはとても助かるので、内部の会議だけでも利用されると良いと思う。 ・zoom参加は認知症のかたは高齢なこともあり難しい。家族の方のサポートを受けられる場合は家族にとっても連れて行かなくて済むという便利さもある。 ・遠方の方に、何か講師を依頼するときも頼みやすい。
15	じよいふるオレンジカフェ	・種やかに、慣れない中でも、積極的に参加されていました。		・1年以上も会わなかったので、顔を見る事ができて良かった。 ・話をしたいことがあって、相談できて良かった。 ・相談のついでにやれて良かった。 ・ズーム操作に、なかなか慣れないと、言っていました。早く対面式開催をして欲しい。	・共同ホストNPO Linkマネジメントの支援を頂き、参加者に対してリモート認知症カフェ開催前に、アプリ操作方法 指導等講座を開催した。	・開催日に参加者が、操作等が分からなくなり、そのたびに訪問して指導を行った。 ・当事者が側について、介護負担に付いて、本音で話せないと聞いていた。	・地域活動として、他に開催している、介護予防教室開催などに、活用していきたい。	・相模原市で認知症カフェ開催を行っている、地域活動団体グループと、オンライン情報交換会開催を行いたい。また、認知症の当事者や家族の方向士での、オンライン情報交換会開催を行いたい。	
16	まんまるえがお	参加者、ボランティアともに毎回楽しく参加されているとの話を聞いています。自治会のサロンが中止されている中で、集まる事が出来る機会は、有難いよ、と。また、引越をされてきて周りとの関係を築く前に、コロナ禍となった方もいますが、カフェに参加することで近隣住民と仲良くなった方もいます。	R2年度は、認知症の方が2名、毎回参加されています。お一人の方は、最初の参加では、無表情なことが多かったですが、その方のためにプログラムに懐メロを入れると、笑顔多くなり話すことも増えました。 もうお一人は、元々ボランティアとして「まんまるえがお」に参加されており、再開をしてからは、PCの後片付けを手伝ってくださったりと以前はやらなかった作業ですが、楽しんで役割を持って参加されています。	毎回、本人と楽しんで参加していますと伺っています。引越をされてきたばかりで知り合いがいなかったけど、カフェに参加することで知り合いも増えました、と。	今までの認知症カフェは、「認知症」に関する講座を聞いたり、家族の話を聞いたり生流だったように思いますが、オンラインではそれをする、参加している意識が薄くなるように感じます。城山の「まんまるえがお」は、全員参加型で自分の得意なこと(ハーモニカ、篠笛、写真、体操等)を披露し、参加者もボランティアも認知症予防しよう!というテーマで毎月行っています。会を増やすことに、自分たちで改善しあい、カフェがより楽しくなっています。 また、「写真」は、コロナ禍で出かけることが出来なくなった人たちに代わって、出かけた気分を味わえと好評で、まさにオンライン(PC)を活かしたプログラムだと思います。	「まんまるえがお」は、会場3か所(1か所有料老人ホーム)、個人宅(複数)をオンラインで繋いで開催しているため、会場側の音声が届き取りづらかったりして、最初はプログラムも中々上手いかなかったりして、徐々に改善し今ではみんなで楽しくプログラムを実施しています。 ZOOMについても、会の代表やボランティアとiPadが手元に届くまでに勉強し準備をしていました。	当事者はもちろんですが、ボランティアも参加することで、みんなで生き生きとした活動が出来よう取り組んでいきます。 元々は、有料老人ホームの中で開催していた認知症カフェだったので、コロナが落ち着いたら、拠点を有料老人ホームに戻す予定ですが、オンラインはそのまま活用し、遠方の人でも参加できる体制にしていこう!と代表の方と話しています。	毎月、認知症カフェの打ち合わせをオンラインでやっているので、そこでも活用しています。	NPOリンクマネジメントの協力で、ハイブリッド型の認知症カフェ開催が出来ました。ZOOMのアカウントやスピーカー等、機器の質問にも答えられます。オンラインをやってみたくて、難しいと感じている団体には一度、相談をしてみたいです。
17	みかん茶屋	・近況をお話されたり、頭の体操では積極的な発言が多くみられた ・タブレット(zoom)の操作方法等に戸惑う様子も見られた。	・「一度やってみたかった」 ・「楽しかった」 ・「ドキドキした」	・参加者にスタッフが1人ずつ付き添い操作を行いながら実施した。 ・多少、操作が分かりそうな方に話をし、参加してもらった。	・自分が話している、それが相手にも伝わっている、という現状が理解できず、その都度説明が必要だった。	昨年度は近隣のコロナ感染が頻回にあり、「タブレット」からの感染等の不安から殆ど実施できなかった。今年度はワクチン接種も進んでおり、実施回数を増やしていきたいと考えている。	介護で外出が難しい家族等への介護者会などで活用したい。		
18	らんらんカフェ	コロナ禍において、参加機会が減ってしまったが、機器を貸し出したことにより、参加機会を増やすことができた。これを活用して、認知症カフェとは別日にウクレレ教室も開催している。	操作も慣れてきて、カフェとウクレレ教室の参加に利用している。他の利用(アプリなど)はできていない	参加機会が減って、楽しみがなくなってきた中で、認知症カフェやウクレレ教室への参加は本人の意欲に繋がっており、嬉しく思う	カフェ開催中でもうまく繋がらない時は、スタッフが自宅を訪問して支援した	接続方法を説明する際に、別の連絡手段が必要だったこと・アプリなどさらに意欲に繋がることにも利用したいが、理解が進まないこと	より多くの方の参加のきっかけになるように貸出先を増やしたい。また、認知症カフェに限らず、本人の意欲に繋がるコンテンツ、認知症を正しく知るコンテンツにアクセスしてもらえるように支援したい。	ウクレレ教室	会場のサブ画面に使う際にハウリングしないように敢えてオーディオを切断する(ミュートではなく)と良いです。ただし、プレークルームに参加した際に、オーディオ接続する必要があります

	団体名	市町村名	開催形式(複数回答可)	回数	参加者数(合計)	プログラム例	県提供タブレットの活用方法
19	一般社団法人 栄樹庵SHIGETAハウスプロジェクト	平塚市	リモートのみ 対面のみ	10回 36回	・リモート 参加者(御本人・御家族等の確認なし)463人 スタッフ・ボランティア30人 ・対面のみ 御本人99人 御家族156人 その他73人 スタッフ・ボランティア486人	19:00 スタート 19:05 ゲストスピーカーとパーソナリティによる講演 19:30 プレークールームによる小グループワーク(自由) 20:15 全体意見交換および周知など ※テーマにより柔軟に変更、小グループは参加任意、発表は求めない	
20	医療法人社団 バイダ相愛会湘南バイダクリニック	平塚市	リモートのみ	1回		自己紹介 ・脳の不思議な実験 ・感じて動く心=脳の神経伝達物質ハッピーホルモン ・体感シェア ・3分間ショートムービー 感動する動画 ・メインテーマ 脳はハッピーホルモンを分泌させると活性化する ・課題 日常のハッピーなことを1日に何個感じられたか数える	
21	株式会社 エムアンドエフ	茅ヶ崎市	リモートと対面のハイブリッド	3回	・ハイブリッド その他 約30人 スタッフ・ボランティア 延べ20人	10:00~12:00 チラシ配布・作品展示販売・口腔体操(口腔ケア)・介護相談	主催者利用、参加家族に貸与
22	厚木市認知症を抱える家族すみれ会	厚木市	リモートのみ	2回	・リモート 御本人3人 御家族22人 スタッフ・ボランティア6人	10:00~10:40 自己紹介/近況報告 体操 笑いヨガ 歌 回想法(季節の行事など) 修了、次回告知	ご本人家族2組と家族会役員(OGと母入所中の息子)に貸与
23	有限会社ふれんどりい	座間市	リモートと対面のハイブリッド 対面のみ	1回 5回	・ハイブリッド 御本人9人 その他1人 スタッフ・ボランティア7人 ・対面 御本人5人 御家族7人 スタッフ・ボランティア10人	ZOOMを利用したリモート会議 おけいこサロン寿と皆さんと認知症カフェの皆さんは各事務所で参加、スタッフ・ボランティアはリモートで参加。合計5か所。 14:00 認知症カフェリニューアルの紹介 認知症カフェの映像ごタブレットを使って皆に流す。 おけいこサロンの皆さんやリモートで参加の人たちに感想を聞く。 それぞれがそれぞれの場所でコーヒーを飲む。 皆で歌を歌って修了。	
24	一般社団法人 かまくら認知症ネットワーク	鎌倉市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド	3回 1回	御家族15人 その他1人 スタッフ・ボランティア3人 御本人5人 御家族15人 その他11人 スタッフ・ボランティア 3人	1. プログラム リモート認知症カフェ事業 2021年2月20日(土)13:30~15:00 「オンライン認知症本人講演会~コロナ禍の今だから伝えたいこと」 ZOOMオンライン+一部対面ハイブリッド開催 参加者31名 13:30~自己紹介/あいさつ 13:40~講演会 講師:仲藤正雄さん 聞き手 :稲田秀樹 14:20~質疑応答 14:30~意見交換と交流会 15:00 終了 2. プログラム リモート認知症カフェ事業 2020年11月18日、2021年1月20日、3月17日 時間 19:30~20:45 「オンライン認知症家族勉強会」 ZOOMオンライン開催 参加者15名(全3回) 19:30~あいさつ、参加者紹介 19:35~講義 認知症の基礎的理解等 講師 稲田秀樹 20:15~家族の体験談から学ぶ 20:30~意見交換・交流 20:45 終了	参加者:ご本人ご家族に貸与1台
25	花物語かまくら	鎌倉市	リモートと対面のハイブリッド	5回	・ハイブリッド 御本人 54人・御家族 1人・その他 20人 スタッフ・ボランティア 17人		主催者利用、参加者(ご本人、家族、その他)に貸与させて頂きました。
26	やまとオレンジプロジェクト	大和市	リモートと対面のハイブリッド	1	・ハイブリッド 御家族1人 スタッフ・ボランティア3人		認知症カフェ再開に向けた試験的な実施であったため、各自所有の端末を使用。

	カフェ名	参加者の様子	御本人からの感想など	ご家族からの感想など	工夫した点	苦労した点	令和3年度に向けた抱負	リモート認知症カフェ以外のタブレット端末活用方法	他団体の方に共有した事等
19	平塚カフェ	毎月変化するものの、30名～80名と多く参加いただいている。気楽にご参加いただいているように感じる。リモート開催であり、イギリスやアメリカといった海外からの参加もあった。	(テレビ取材の際)気を使わなくてよい場所、言いたいことを言える場所といった評価を頂いている。	ブレイクールのグループ分けの際、「同じ境遇の方と話したい」といった声を頂くようになった。	・毎回ゲスト(認知症を持つ方、認知症を持つ方のご家族、専門職など)をお招きして、最初の30分くらいお話をしてもらう。いろいろな人のお話をお聞きして、認知症を自分の事として考える時間となったり、自分の人生や暮らしを考える時間となったり…なかなか得難い経験が出来る時間となっている。「認知症を持つ方のお話を聞く機会がないので、とってよかった」というような感想をいただいている。 ・グループワーク発表という概念をやめて、ゴールを求めない会話が出来るように配慮した。聞くだけ参加など多様な参加者があり、かならずしも発言及び小グループへの参加を求めることはしていない。 ・人数が多いので感想などは、チャット機能を活用して記録に残し、ゲストスピーカーに必ずフィードバックしている。 ・ラジオ番組を参考に冒頭に「ジングル」をいれて、スタートのきっかけにしている。著名な方も参加してくれるが、発言機会が偏らないようにしている。	運営費ついてい。現在、一般社団法人栄樹庵の会員の方からの会費などを運営費として使わせてもらっている。ゲストの方への謝礼はオリジナルグッズとなっている。	リモートからハイブリッドへ現在の良い部分を継承しながら、展開していきたい	・上記オンラインカフェ(「オンライン平塚カフェ」)のほかに、オンラインウクレレ・カフェ(zoom使用)を月に1回開いている。そこで、認知症を持つ方とご家族がタブレットを利用して参加している。ウクレレの楽譜を見るときに、画面が大きいタブレットはとっても使いやすいという評判。参加者は毎回10名ほど。認知症を持つ方1名、ご家族3名、そのほか4～5名、スタッフ3名 ・対面のカフェのときに、使い方を学ぶことがあったり、写真を撮ってみたいしている。(オンライン平塚カフェに参加することをためらう認知症を持つ方やご家族もいらっしゃるのですが、ウクレレ・カフェの場合は参加者を広く募集していないため、参加しやすいという声があります)	オンラインカフェを開催している団体同士がつながる機会があっても面白いかなと思っています。
20	パンダさんのお茶会	みなさん、ZOOMに慣れている人が参加されたので、円滑に楽しく進んだ。しかし、自己紹介以外に発言しない人もいて、孤立感がある。	・息抜きができた ・楽しかった ・また参加したい		みなさんに振るようにはしたけれど、緊張で話せない人もいたので、和ませるようなワークをしたり、孤立感が生まれにくいような問いかけを行った	とにかく、端末もPCも怖がってしまって、ZOOMも嫌がり、参加者があ集まらない。タブレット触ることさえ、「わからない、難しい、やりたくない」と拒否されてしまう。	主な参加者2人とLINEでつながり、連絡交換をしながら主軸でお手伝いをしてもらい、ZOOMをつかえる高齢者を増やしていく活動もしていきたいと思います。	特になし 今後検討	
21	湘南オレンジカフェ「なないろ」	多少の声掛けは必要。それにより積極的言動が発生する。昨今の状況で会話が減っているため、話し出すと、中々止まらなくなる。	「話し相手がいなくて誰に聞いていいかわからないから助かる。」 「体操やケアを自宅でもやってみる。」 「今にもやらないから定期的に行くといいところがあると嬉しい。」	「どこに相談したらいいかわからない。」 「認知症なのかどうか判断できないから聞いて良かった。」	コロナ感染拡大予防対策として4月～9月開催を自粛した。 再開にあたり、関係者で相談し展示メインに変更しワークショップなどの集客を中止した。そのため現状をLIVE発信しながら毎回、次回の開催について相談しながら開催した。	展示品の回収、チラシや情報発信の為にポスター作り。 端末を利用した大画面での動画放映やLIVE発信。	毎月の開催を感染対策をしながら模索し、小規模での開催出張カフェなど形を変えて実施したい。	動画撮影や編集をし発信する。	飲食店のキッチンカーのように規模は小さくいいので病院の外や散歩途中の公園などで開催したい。
22	認知症カフェ「カフェすみれ」	初めてのリモート体験、家にいながら笑顔で皆と交流できていた。 ご家族がご本人に確認しながら共に笑顔で参加している。 認知症の方が、百人一首や犬棒かるたをすらすら読んでもらう。 コロナ禍で安心して交流できている。ボランティアで5歳児の参加あり	皆に会うとホッとします。コロナ禍、家族以外と話す機会がないので、楽しく話が出来るようになった。新しいことに挑戦出来る家(若者に負けず)交流出来、達成感があった。	今回の機会を頂いて初めてリモートを体験しました。母にはテレビとリモートの違いが理解できるはずもなく、ハラハラでしたが、皆さんの声掛けに調子に乗って、ご機嫌でした。(実母介護) 最初は恥ずかしいと言っていた母がおもしろいなあ～と終始笑顔だった。 照れ屋な義母ですが、誕生日を祝っていただき、恥ずかしがるかと思いましたが、素直に喜んでいました。(義母介護)	うなずき、身振りを大きく伝わりやすくする。 私語を慎む。必要に応じて主催者側でミュートを活用する。(基本全員音声あり) 認知しやすいように視覚に訴える。(お誕生日おめでとうカードの提示、節句の人形の固定カメラ、地域の花情報の画面共有など。)	Wi-Fiの環境がない人、新しいことへの挑戦意欲のない人への参加呼びかけ。 一箇所に集まることでのソーシャルディスタンスの問題と近くで端末を使うことでのハウリングの問題。 時間の配分とタイミングのよい終わり方。 リモートと対面のハイブリッドのカフェにしたいが、機器に詳しい人が少なく、公共施設でのWi-Fi設備のある部屋が少ないため、リモートのみ開催となったこと。	リモートと対面のハイブリッドの有効な運営 誰もが参加できる場 ご本人が主役になれる場 笑顔のある楽しい場 一人一人が思いを語れる場 体や口、頭を動かし、脳を活性化できる場	今後もし必要ならすみれ会(家族の会)のリモート運営	ハイブリッドでの運営の仕方 全体像を写すカメラ 集音マイクの使い方
23	認知症カフェきよさと	映像に知っている人が写ったり、認知症カフェが写っていたりしたので「この場所知っている」「あの人が知っている」手を振ったりしていました。コロナで認知症カフェに来ていなかったボランティアもリモートで参加して利用者の元気な姿に安心した様子でした。	認知症カフェへがリニューアルした様子を見て、また行きたい気持ちになったと言っていました。タブレットは小さいので何をやっているのかわからない等の意見がありました。		みんなが興味を持つような演出を考えました。 テレビに映像をつなげて大きな画面で見ました。	画面がぶれたり、切れたりして大変でした。マスクをしていると声が聞こえにくく外してしまいました。	コロナがまだ続いているので積極的にカフェを開けませんが、小規模多機能の新規利用者や認知症の相談に来る人にはカフェを開けています。リモートも面白いのですがタブレットの小さな画面ですと見づらくなります。コロナが続くのであれば、たまに違う事業所の人たちとリモートでお茶を飲む環境も良いと思います。	タブレットが記録を書くことに使える様なので今後活用していきたい。	認知症カフェきよさは小規模多機能の利用者が働いているカフェです。ほかのカフェの人たちとリモートで交流出来たら面白いですね。
24	若年性認知症ほっとサロン	お子さんのサポートもあり問題なく参加していた。	はい、元気になっています(ご本人)	タブレットの使い方には自信がないが、参加できてほっとした(ご家族)	オンラインツールの使用に自信がない場合はお子等の他のご家族のサポートを受けるように提案した。貸与されたタブレット以外の参加者(スマートフォン等)にも個別にZOOMの練習会を実施したり、ZOOMアプリの情報提供を行い円滑な参加に結びつけた。	参加を希望されたがリモート機器の機械操作に自信がなく参加につなげられなかったご本人ご家族がいた。	リモート開催の行事は今後も継続していく予定となっており、今後も貸与していただいたタブレットを活用してコロナ禍における効果的な支援につなげていきたい。	今年度当会では、オンラインでの認知症講演会やオンラインでの認知症家族勉強会に於ける参加支援ツールとしてタブレットを活用しました。	ZOOMなどのオンラインツールを活用することで、県内各地域の取り組みを市域を超えて伝えあい、相互に刺激を受けて支援力の向上につなげることが出来るのではないかと考えています。
25	オレンジカフェ パンとカフェ 「みんなで笑って楽しく脳若返り」				通常は、パン作りをしながらの認知症カフェなので、お話だけのリモートカフェは、最初物足りない感じでしたが、何回か続けているうちに、地域の方とお話に盛り上がり楽しんでいになりました。	WiFiが途切れることがあり、話が中断して困った点。	地域包括支援センターや民生委員の方と、話し合いをして、今年度は、1月から対面で認知症カフェの準備をしていくことを了解して頂きました。(状況を勘案して準備いたします。)	ご本人と家族のリモート面会に活用させて頂きました。	新しい形のカフェも楽しく出来ますよと、お伝えしたいです。高齢の方も手順良く使い方を教えると、歌を歌い、楽しい語らいが可能でした。
26	オレンジカフェ@やまと	今回、ZOOMソフトを使いまいしたが、初めて利用するスタッフは苦戦していました。特にホストが使い方を熟知していないと音声が出なかったり、招待できなかったりとかかなり混乱しました。本編がスタートしてもらいリモート参加者が発言せず、活発な会話には程遠い雰囲気。		声が聞き取りにくい。		ソフト自体の操作とその説明、そもそも説明に使うネット用語について、理解できず。	6月にスタッフ3名、一般参加者1名(自身の端末)で久々のカフェを試験的に実施いたしました。8月末にも実施予定で、コロナ以前のように月に1回程度のペースで再開したいと思っています。8月は宣言下なのでリモートのみとし、状況を見てハイブリッドに移行していきたい。	特になし	認知症カフェは、地域のコミュニティとして実際に顔を合わせることを楽しみにしている人が多いので、リモートを使ってまで参加することに消極的です。

	団体名	市町村名	開催形式(複数回答可)	回数	参加者数(合計)	プログラム例	県提供タブレットの活用方法
27	特定非営利活動法人 笑顔	横浜市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド	1回 5回	・リモート 御本人1人 御家族1人 スタッフ・ボランティア2人 ・ハイブリッド 御本人49人 スタッフ・ボランティア 20人	リモート認知症カフェとして、スマホ教室、高齢者のSNS活用セミナー、加藤先生のコグニサイズ(Zoomによる体験配信)を企画・計画し、NPO法人笑顔のFacebooksでイベント告知等を実施した。 Zoomマニュアル(主催者編)(参加者編)とハマボプロジェクト成果のZoomマニュアルの両方を活用 13:00～ 参加者集合、自己紹介/近況報告、水分補給 13:30～ サロンド鹿鳴館のiPad等を活用したICT体験学習(操作法) 13:45～ 加藤先生のコグニサイズをZoomによる体験配信 前半:認知症と運動効果等の教養セミナー 14:15～ 休憩(水分補給) 14:30～ 後半:みんなで楽しいコグニサイズ体験(Zoom同時配信) 15:00～ 参加者のみなさんから感想や質問等を受けて談笑 /次回の活動予定等のお知らせ告知 15:10～ 密にならない程度のコミュニケーションタイム ※コロナ禍以前はテーブルを囲んで実施したが、コロナ禍では各人毎のお盆(お茶・お菓子等)で、コグニサイズ実施時の席のまま実施するスタイルに変更	①リモート認知症カフェ開催当日 ・主催者は既存のサロンド鹿鳴館所有iPad及びサロンド鹿鳴館既設のデスクトップパソコンを主用。 ・県提供タブレット4台は、参加された高齢者に貸与 ②開催準備及びタブレット習熟 ・参加される高齢者が希望される場合は、県提供タブレットを貸与
28	グリーンカフェ	川崎市	リモートのみ	3回	・リモート 御本人6人 その他36人 スタッフ・ボ ランティア12人	月に1回 第3木曜日13:30～ 1月「画像と音声をつなげるのが目標！」 2月「画像と音声をつなげるのが目標！」 3月「コロナ禍における自治会活動について」 4月「zoomで楽しもう！ふれあいソング♪」 5月「遠くの他人より近所の他人です！」 6月「ひっそり起きている地域の社会問題を知ろう！」 3月13:30～ ①主催者挨拶 ②区役所地域振興課「コロナ禍における自治会活動について」 ③ワクチン接種の今後予定について、情報共有 ④参加者ひとりずつ最近の近況報告～14:10終了	自治会自体が高齢化しておりますので、皆で練習しながら開催中。
29	のんびりカフェ	相模原市	リモートのみ リモートと対面のハイブリッド	5回 5回	・リモート スタッフ・ボランティア10人 ・ハイブリッド その他5人 スタッフ・ボランティア10 人	14:00～ 開始挨拶・自己紹介(自己紹介と共に出身地などテーマに沿って合わせて発表) 14:10～アクティビティ1 もしくは街角保健室的な情報発信(ワクチン情報等) 14:30～アクティビティ2 14:55クロージングと次回開催日のお知らせ	利用者宅への貸し出しを検討したが、操作が困難にて地域の薬局の協力を得て、第二、第四土曜日の午後一時間待合室をお借りして開催。 薬局勤務のボランティアメンバーが、タブレット操作をすることで参加者がタブレット利用をする形となった。
30	おれんじカフェずし	逗子市	リモートのみ 対面のみ	3回 6回	・リモート 御本人2人 御家族13人 その他17 人 スタッフ・ボランティア10人 ・対面 御本人17人 御家族31人 その他21 人 スタッフ・ボランティア25人	時間はきっちり決めていませんでしたが、自己紹介、歌、体操、最近の出来事についての話し合い、季節ごとのテーマについての話し合い(3月は防災についてなど)、それぞれおやつを準備しそのおやつを選んだ理由・おやつ自慢をするなどの内容で行いました。	普段おれんじカフェに参加している主要メンバーへ貸出。元小学校教諭の方の協力でzoom勉強会を開催し、みんなが使えるようにした。 週1回認知症カフェに関わっているメンバーで1時間程度zoomミーティングを行い、近況報告、認知症カフェのあり方についての話し合い、zoomの使い方についてお互いにアドバイスなどを行っている。 希望者がいればおれんじカフェにリモート参加できることを広報で周知している。

	カフェ名	参加者の様子	御本人からの感想など	ご家族からの感想など	工夫した点	苦労した点	令和3年度に向けた抱負	リモート認知症カフェ以外のタブレット端末活用方法	他団体の方に共有した事等
27	鹿鳴館カフェ	<p>①グループA: 本人がまだまだお元気で、スマホ等の使用にもある程度(通話程度)の自信のある方たちで、ICT活用のセミナー・勉強会に積極的に参加されるグループ ※全体の10~20%程度</p> <p>②グループB: ICTやスマホ等にほとんど興味を示さず、活用するためのセミナー・勉強会に全く興味を示さないグループ ※20%程度</p> <p>③グループC: グループAのうち、タブレットの活用や、自らガラケーからスマホ購入を積極的にご家族に提案されるグループ ※Aの半分程度</p> <p>④グループD: タブレットやスマホの活用に強い興味を持つもの、ご家族等に遠慮されて(何回もやり方を聞く迷惑、更なる出費など)を心配して躊躇されるグループ ※全体の50%程度</p>	<p>①やってみてとても楽しかったけれども、やはり良く使える人又はご家族と一緒にいてくれないと不安である。(実際にも高齢者お一人ではかなり難しいということが分かりました。)</p> <p>②一人でICTを使いこなすことは難しいですが、毎日使い続けられれば使えるようになるかもしれないので継続を希望する。(この方たちに対して継続したICT活用支援が必要と痛感しました。)</p>	<p>・タブレットのLINE等で「お婆ちゃんが孫とテレビ電話して楽しそうに話せることに驚きと喜びを感じました」との感想多数。</p> <p>・高齢の親が上手く使えるならガラケーからスマホに換えてやりたいがなかなかその良いタイミングが分らない。ご家族としては、本当に一人で使えるのか? 通信料が高くないか? などの不安があるようです。</p>	<p>・事前にスマホ携帯所有者を把握するとともに、その方ご自身がどこまで活用できるかスキルレベルを事前に聞き取りアンケート等で把握した。</p> <p>・高齢者にやさしいZoom参加マニュアルをハマボノのみなさんの協力を得て作成した。</p> <p>・リモート認知症カフェの開催に当たっては、日ごろから連携している緑区役所、中山ケアプラザ、中山社協等と情報共有に努めた。</p>	<p>・参加希望の高齢者宅を訪問して、高齢者宅でのリモート参加体験を実施する計画を立てたが、コロナ禍の予防対策重視で実現には至らなかった。</p> <p>・サロンド鹿鳴館内の施設空間を活用して、事務所を高齢者宅の模擬モデルルームに想定して、少しでも参加高齢者が現実的な生体験できるように工夫して体験会を実施した。</p>	<p>令和2年度から本格化したコロナ禍における「笑顔サロン」開催を追求してきたが、令和3年度は、①高齢者のICT活用リテラシー向上に資するような賞与プログラムを創設する。②第4土曜日「加藤先生の楽しいコグニサイズ」は、当面Zoom配信を継続する。主催者スキルアップを追求する。</p>	<p>①高齢者のみなさんを対象としたスマホ等活用教室として、積極的にサロンド鹿鳴館内でのデイサービスプログラムに取り入れて、高齢者のiPad等タブレット活用法を利用者様と実践研究したい。</p> <p>②利用者様がICTに慣れ親しんでもらうために、サロンド鹿鳴館を利用する高齢者様に、簡単かつ定期的に賞与できる賞与プログラムをNPO法人笑顔で作成・実施したい。</p>	<p>① 当NPOの活用においては、県の通信料負担通信回線を使用することはほとんどなかった。サロンド鹿鳴館内にはギガWi-Fi環境があり、また高齢者のご自宅にもご家族がWi-Fi環境を装備している方が多いので、通信回線使用料を気にすることなくWi-Fi環境活用を回った方が良いと考える。</p> <p>② ハマボノプロジェクトで作成した「高齢者に優しいZoom活用マニュアル」の配布を希望される場合は、調整して団体様へ提供させていただきます。</p>
28	グリーンカフェ	<p>ずっと会わないうちの方とパソコンの中で会えてビックリした。高齢でパソコンを使いこなしていることにもビックリした。</p>	<p>要介護4の認知症のご主人を介護されている要介護の方。参加しようか迷ったけれど、久しぶりに皆に会えたので嬉しかった。お化粧しなくちゃいけないし、洋服も着替えなきゃと思うとちょっと面倒くさいけれど、訪問リハビリの人が「参加したほうが良い!」っていうから、しようがないから参加するよ。一人だと心細いから近所の方に来てもらって二人で参加するのは楽しいよ。私にできることあるかしら?</p>	<p>皆さんがどれだけ使いこなせるのかわからなかった。zoomの研修会を開こうとしたが緊急事態宣言で、開催できなかった。「画像と音声をつなぐことが目標!」で2回やってみたら、結構話せたのが良かった。</p>	<p>要介護4の認知症のご主人を介護されている要介護の方。参加しようか迷ったけれど、久しぶりに皆に会えたので嬉しかった。お化粧しなくちゃいけないし、洋服も着替えなきゃと思うとちょっと面倒くさいけれど、訪問リハビリの人が「参加したほうが良い!」っていうから、しようがないから参加するよ。一人だと心細いから近所の方に来てもらって二人で参加するのは楽しいよ。私にできることあるかしら?</p>	<p>有料ズーム代22000円とタブレットのインターネット代24000円をどこから捻出するか? 4月下旬に「宮前区の市民活動支援金」を申請し、支援を受けることができ、現在は快適に利用できている。</p>	<p>どこに焦点を置くのか…が課題。スタッフも皆さん高齢になりつつあり、ITを使いこなせない方が多い。「認知症カフェ」という名前なのに、わかりやすい該当者は参加していない現実。考え方を改めて、「認知症になっても仲間外れにしない町づくり」を目指す一人一人がスタッフとして、インターネットが使えるように練習しながら、今後外に出られない方のところにタブレットを持って該当者が参加できるシステムにいつか移行できるようにしたい。</p>	<p>地域で「スマホはあるけれど、タブレットってどんな感じなのかしら」という94歳女性に貸し出している。地域の美化活動のチームへ打ち合わせのために貸し出しの打診、カラオケクラブが「試しに使ってみよう」などのオファーがあるので貸し出しも検討。(自治会に運動部 テニス部、バドミントン部、卓球部が存在するが、自治会自体が高齢化し人数が少なくなっており文化系の部のニーズが増えている現状がある。)地域活動推進や高齢者ニーズに対応していきたい。</p>	
29	のんびりカフェ	<p>初めてのタブレットで驚く人。タブレットが何なのかを初めて知ったと話す人。やはり自分には操作が無理だ…と諦め模様の方。様々でした。高齢の為難聴で会話がスムーズにいかない場面。Zoom開催にて複数の画面がある中で会話が難しいなど様々な問題もあり。アクティビティが全ての人に楽しんでもらえたとはいいがたい状況でもあった。</p>	<p>認知症診断とされた当事者の参加が無かった。(お声がけはしたものの、このような時期だったので人と集まるのは消極的な方も多い印象)</p>	<p>使用しているデバイスから参加が可能であることをお伝えし、毎回zoomURLお知らせしていたが、参加はなし。</p>	<p>薬局での開催が出来たこと。各薬局のご協力で今回のハイブリット開催が可能になったのは工夫と言うより、薬局の地域活動参加にたただ感謝しかない。</p>	<p>難聴の参加者に対する対応……ボランティアスタッフが間を取り持ったりしていたが、徐々にアクティビティ参加が消極的になってしまったことが苦労したことと言うよりは反省点。</p>	<p>安心して当事者参加が可能な環境づくりあわせて地域住民への啓蒙活動</p>	<p>当団体の活動拠点である特養サービスセンターを月一回利用させていただいて開催していた。同法人内にある地域包括支援センターが当団体のサポートを行ってくださっている関係で、地域活動への利用からタブレット貸し出しを行ったことがあります。</p>	
30	おれんじカフェずし	<p>Zoomを使える環境が無い方は、使える方の自宅に少人数で集まりそこから参加。当事者の方も楽しそうであった。歌はずれてしまったが、それはそれで楽しみながら歌うことができた。</p>	<p>歌も自由に歌えて楽しかった。家族と一緒に安心して参加できた。</p>	<p>介護者の心の安らぐ場となった。Zoomの向こうの辛さを知ることができた。</p>	<p>Zoomを教えてくれる人がいたことで有効活用ができた。最初にzoomの使い方講座をやれたのが良かった。担い手同士の打ち合わせがコロナ禍でもこまめにでき(週1回ペース)、カフェ開催の際もスムーズにできた。担い手同士のそれぞれの活動も共有でき、コロナ禍で分断される感じが減った。</p>	<p>当事者の方のzoomでの参加が一人では出来ないもので、1回目、2回目の時は当事者の方の参加ができませんでした。3回目は小さいグループに分かれて一緒にzoom参加できた。</p>	<p>だいたいzoomの使い方も慣れてきたので、新たな参加者、zoomを使える環境が自宅にないけれど参加してみたいという方のサポートをし、おれんじカフェに對面でもオンラインでも気軽に参加できるように支援をみんなで考え、実践していく。</p>	<p>おれんじカフェの運営メンバーの情報共有などを行う。家族会も立ち上がったので、希望者がいればリモートでの参加もできる。</p>	